

講演抄録

○特別講演 I: 島田 幸恵 先生

『 歯の萌出障害のリクスマネージメントと外科的咬合誘導法について 』

萌出障害した歯は、隣接歯の歯根を吸収しても痛みを伴わないため発見が遅れる要因となる。常に歯の萌出時期を念頭に口腔内診察を行うこと、歯が萌出障害されている部位では、歯槽堤の幅、深さ、および高さの成長が少ないことに着目し歯の萌出のリクスマネージメントすることが重要である。萌出障害の原因を摘出後、咬合面にスーパーボンド®□で矯正用のボタンを付与し簡単に萌出誘導することができる方法 (Shimada Method) や、萌出障害のため萌出方向異常を伴った場合には、原因を除去後に萌出障害歯を意図的に脱臼し、萌出方向を整直してからサージセル®□をパックするだけで萌出誘導する外科的咬合誘導法を行うとよい。

○特別講演 II: 小野 卓史 先生

『 呼吸と歯科の深い関係: ある矯正歯科医の臨床・研究の旅 』

古より「齒亡舌存」(説苑)といわれるように、舌は、生涯にわたり顎顔面口腔領域の形態および機能に影響を与える器官である。演者は、大学院時代から一貫して舌の生理的な機能ならびにその障害に関する研究に携わってきた結果、「舌は呼吸器官である」と認識するに至った。顎顔面口腔領域は、舌を中心として咀嚼のみならず呼吸機能において重要な役割を果たしている。本講演では、成人における外科的矯正治療における睡眠呼吸障害の考え方、若年者における軽度ならびに重度の呼吸障害を想定した動物実験から得られた最新の知見を通じて、如何に歯科が呼吸と密接に関連する分野であるかを明示し、患者 QOL の向上を目指した臨床に供したい。

○教育講演 I: 各務 肇 先生

『 叢生に対する咬合誘導の再確認(その1) 』

ーそのタイミングとタイミングに合わせた治療法ー

当会会員は、「不正歯列を原因とする不正咬合」や「不正咬合からおこる不定愁訴」の予防に向けた咬合の誘導や咬合の育成に取り組んでいます。各先生にそれぞれ巡り合った子どもたち一人ひとりを健康に導き、助けようとしています。

当会の咬合誘導とは、3D装置などを使用するルティーンコースを基とし、先生方は、各自でその子どもに合わせた治療行程をおこなっています。

本年のテーマは「叢生について考える」です。

予防矯正をするなかで、咬合誘導を的確におこなっていくには、初診や検査後の「親との対話」の段階が最も大切です。

人にとって、一番はじめの叢生は下顎前歯群、次に上顎の前歯叢生です。この叢生をどのよう

に説明して(子どもの将来のために)いつ、どのように治していくのか？その行程を説明していくなかで重要な、当会会員のみが知り得ている細かい方法やコンセプトがあります。それらを再確認しながら、2回に分けて話を進めていきたいと思えます。